

第26回 2016年

3/19^土 - 3/20^日

大山とうふまつり



大山とうふまつり実行委員会

☎ 090-2322-6599

大山と豆腐の歴史

大山は、山岳信仰の靈山として、また農民からは水を司る神として、漁民からは航海の目印ともなる海の守護神として古くから崇拜されていました。ここに阿夫利神社が創建されたのは、社伝では紀元前97年とされています。

また大山寺の開山は早く、奈良時代の天平勝宝7年(755)に、華嚴宗の良弁(ろうべん)僧正が入山したことによるとされています。良弁僧正は、日本に華嚴宗を広めた僧で、奈良東大寺建立に尽力し、初代別当になった人です。一説によれば、相模の人とも言われています。

平安時代には、神仏習合思想により山頂の阿夫利神社には石尊大権現が、山腹の大山寺には不動明王が祭られて、大山全体で神仏一体の姿ができあがりました。以降の大山は、僧侶と修験者、神職の三者で維持されていくことになります。

朝廷の庇護も受けた大山信仰は、武士の間にも広がっていきました。鎌倉幕府を開いた源頼朝を始め、足利尊氏、小田原北条氏等、多くの武士の信仰の対象になりました。

そして時代は江戸に移り、家康は慶長10年(1605)、大山の大改革を「寺院法度三ヶ条」により行いました。これにより、山上にいた多くの修験者や妻帯の僧らが前不動から下におろされ、大山と養毛(秦野市)に定住して御師になりました。

改革の後、江戸幕府は、春日局や高僧を度々代参に送り、将軍家のための加持祈祷を行い、同時に寄進などの経済的な援助を実施しています。将軍家との結びつきが強まる一方、江戸市民の中の知識人や上層商人の間でも、大山の存在が認識されるようになり、大山信仰は江戸の市民にも広がっていきました。

この背景には、御師たちが江戸をはじめとした諸国の村々を廻り檀家を獲得し、大山信仰の布教や講の結成、参詣者の勧誘に努め、さらに参詣者への宿泊場所の提供、寺社への案内等を行うようになったことも大山発展の大きな原動力になったと考えられます。

また、江戸の町の人口が増えたことも大山を発展させた一因です。徳川家康は、江戸幕府を開くと、諸国の大名に命じて、大規模な海岸埋立工事などの基礎整備に着手。

さらに、二代将軍秀忠は天下の政庁にふさわしい城をめざして、継続的な江戸城の大拡張を始め、三代将軍家光の時に天守閣、大手門、本丸御殿などの江戸城の主な建物が完成しました。できあがった江戸の町には、旗本や諸大名、商人、職人など、多くの人が住む

ようになり、開幕当時の寒村が天明のころには135万人を超える人口を持つ大都市に変貌しています。大都会江戸の町から見える霊峰大山に人々は憧れ、江戸の人口の増加と比例して、参詣者は増加していったのではないのでしょうか。

この頃になると、宿泊の形態も「木賃宿」から一泊二食付きの「旅籠」へと移り変わり、御師たちが食していた精進料理である豆腐料理が広まっていきました。

今でこそ「大山と言えば、豆腐料理」と言われるほど有名な名物となりましたが、それにはいくつかの理由が考えられます。

例えば、「参詣者に供給する大量の食糧を保存しておく設備がないため、井戸水などの冷水につけて保存できる豆腐などは、最適な食糧であったこと。」

「豆腐の製造と保存に適した霊峰大山の良質の水が使われたこと。」
「江戸の発展と共に大幅に参拝者が増えていったこと。」
「豆腐が修験者や僧職経験者が食べ慣れた精進料理だったこと。」
「大山の御師たちが配札や祈祷、日侍行事などを行い、謝礼として受け取り集められた大豆などの豊富な原材料が大山に集中したこと。」…など。

このように多くの要因が複合し、高品質の豆腐が大山に生み出され、さらに育てていったために「大山の名物＝豆腐」という図式ができあがったのです。

話を歴史の方に戻しますと、大山は、江戸中期になると、江戸の大火、関東の大洪水・飢饉、都市の打ちこわし、農民一揆などが続き、人々が神仏にすがろうとし、大山信仰もさらに盛んになりました。

そして、参拝者のさらなる増加に伴い、多くの大山街道が整備され、参詣者と御師の往来はますます頻度を増し、門前町としての大山も最盛期を迎えることになりました。

山頂の「石尊大権現」と中腹の「別当寺雨降山大山寺」を中心に栄えてきた大山は、明治元年に神仏判然令が出されると、神社と大山寺に分かれ、石尊大権現は「阿夫利神社」に社号復元がされます。

また、同6年には国学者権田直助を迎え、その指導によって御師は先導師に改称するなど、神仏分離後の大山再興に向けた努力が行われています。

その後も、信仰の山として、豆腐料理の里として、多くの善男善女を迎え、さらに最近では首都近郊の手軽な観光地としても多くの人を集めています。

恒例!達人たちとの食談

その道の達人たちのパフォーマンスと

大山名物のとうふ料理を堪能し、身も心も暖めよう・・・



薩摩流琵琶演奏会

会場：蓬生亭逸見
(TEL 0463-94-3476)

3/19(土)

①12:00～ ②18:00～

¥10,000-

荒井 姿水 (薩摩流琵琶女流奏者)

荒井 靖水 (薩摩流琵琶奏者)

荒井 美帆 (薩摩流琵琶奏者)

1. 櫻井の駅 2. 鶴越 他

荒井 姿水 プロフィール

日本琵琶学協会主催コンクール1位、文化大臣奨励賞、NHK会長賞受賞。古典曲の演奏を主とするが前衛舞、朗読など他のジャンルとの共演も多い。

ダイアトニック・アコーディオンとフルートの世界

会場：夢心亭

(TEL 0463-91-1551)

3/20(日) 17:00～20:30

¥ 7,000-

【出演者プロフィール】

●米山 永一

武蔵野美術大学商業デザイン科在学中に幼児教育番組「ひらけ! ポンキッキ」の制作。子供向けの雑誌、絵本を中心に活躍中。著作には、『ジャックとまめのき』他多数。ダイアトニック・アコーディオン奏者。

●米山 尚子

人形作家。「尚子人形」の名で世界各国で人気。イタリア在住時、Gianluca Campi氏、Filippo Gambetta氏に師事。鍵盤:アコーディオン&ダイアトニック・アコーディオン奏者

●濱本 優子

武蔵野音楽大学フルート専攻卒業。フルート講師。クラシック、ジャズ、ハワイアン、タンゴ等、様々なジャンルの演奏グループ、アイルッシュ音楽ユニットで活動中。



食談チケットについて

1. 発売日・・・・・2016年2月1日より

2. 販売数・・・・・各会場 30枚～40枚 くらい

3. 販売場所・・・各会場、

または「大山とうふまつり実行委員会」事務局 **090-2322-6599**

阿夫利神社下社

至：246号・伊勢原

協賛会社ご芳名一覧

大山観光案内所

小田急電鉄(株)

大山阿夫利神社

市川商事(株)

大山寺

大塚水産(株)

大山先導師会旅館組合

伊勢原市商工会

伊勢原市農業協同組合

井田興業(株)

神奈川中央交通(株)

産業能率大学

三之宮比々多神社

(宗)思親会

山田プロパン(株)

青木館

(株)泉八

(宗)伊勢原大神宮

(一社)伊勢原市観光協会

伊勢原ホーム

(有)岩沢醸造

糸びすやみやげ店

(有)えびや

遠州屋米穀店

大木旅館

大山飲食店物産組合

大山商業組合

大山観光電鉄(株)

大山きやらぶき本舗

(有)大山綜合食品

大山フィッシングセンター

とうふ処 小川家

(有)奥井石材店

宿坊 かげゆ

カサハラ印刷(株)

(株)柏木牧場

(公社)神奈川県観光協会

神奈川日産自動車(株)

小出商店

越水行政書士事務所

旅館 こみや

米屋きやらぶき本舗

(株)コンパス

貞見寺

(有)シンエイ

スマイルゼミ寺子屋

山荘 だいとう

武和工房

米本舗 (有)瀧本屋

(株)立富

(有)谷和

(株)茶加藤

中栄信用金庫伊勢原支店

中南信用金庫伊勢原支店

塚本みやげ店

東學坊

(株)東京めいらく

(有)都市設計

中村屋

西の茶屋

旅館 はこざき

花呉装

普済寺

フジケース(株)

(有)マイティースポーツ

(有)丸興商会

(有)丸正クリーニング

海鮮市場 マルモト

(有)水野商店

夢心亭

旅館 もとだき

守屋税務事務所

山ゆり

湧水工房

横浜銀行伊勢原支店

蓬生亭 逸見

ラ・雅寿

良辨

(株)渡辺工務店

和仲荘

地酒「伊勢原」

主催：大山とうふまつり実行委員会

後援：伊勢原市、神奈川県、(一社)伊勢原市観光協会、(公社)神奈川県観光協会、
大山観光振興会、**tvk**、神奈川新聞社、朝日新聞横浜総局、
読売新聞東京本社横浜支局、毎日新聞横浜支局、産経新聞横浜総局、
東京新聞横浜支局、日本経済新聞社横浜支局

お問い合わせ・お申し込みは